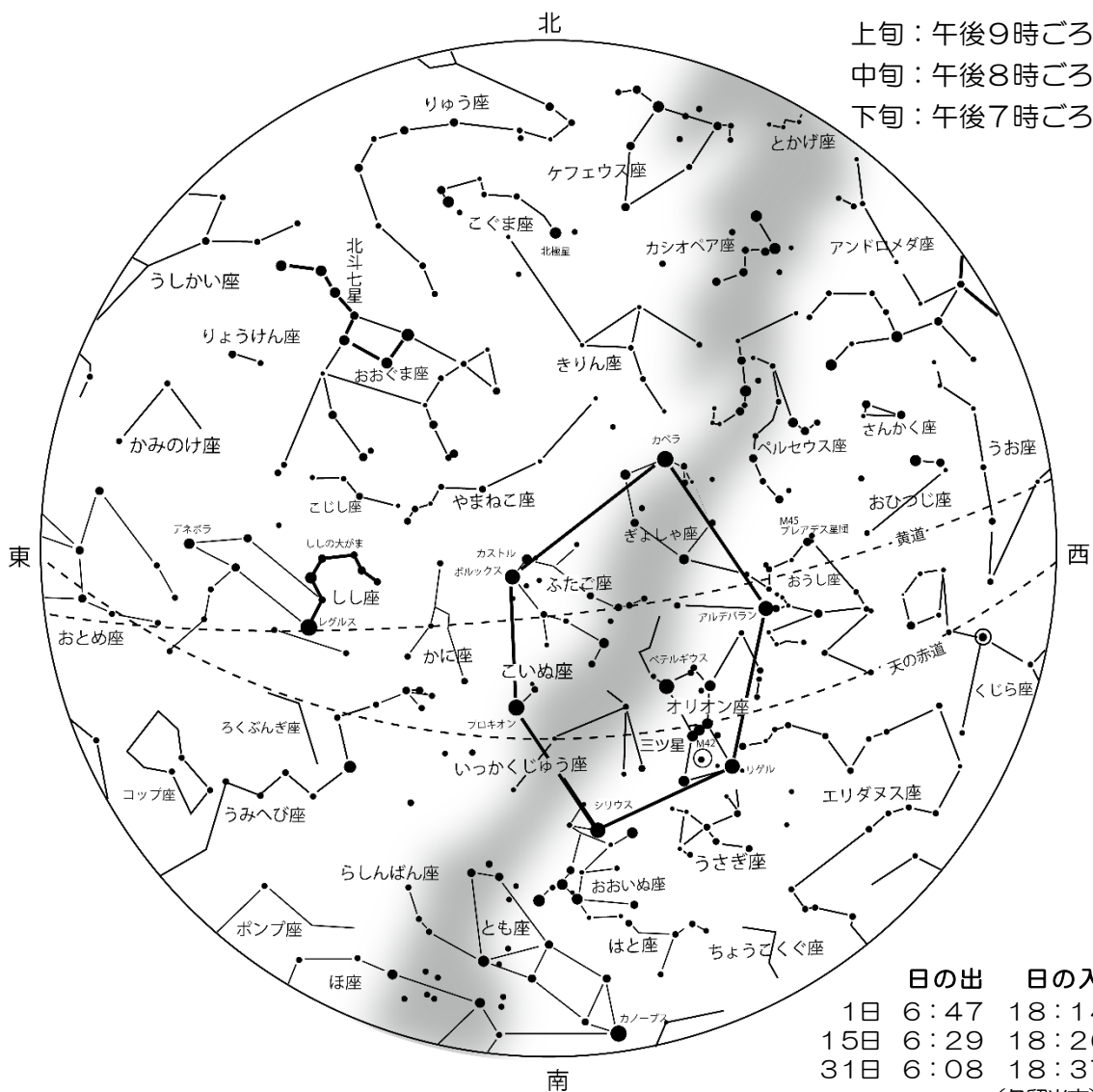


令和4年 3月の星空さんぽ☆ガイド

～ほしを眺めてみませんか～



上旬：午後9時ごろ
中旬：午後8時ごろ
下旬：午後7時ごろ

★3月の星空案内

今月の午後8時頃の南西の空には冬の代表的な星座オリオン座が見えています。オリオン座は3つの星が等間隔に並んでいる“三ツ星”が目印です。その左上で赤っぽく輝く1等星がベテルギウス、右下で青白っぽく輝く1等星がリゲルです。三ツ星を南東にのばしていくと、全天で最も明るく輝くおおいて座の1等星シリウスが見つかります。そして、ベテルギウスの東側には、こいぬ座の1等星プロキオンがあり、プロキオンよりも高い所、頭の真上あたりにはふたご座の1等星ポルクスがあります。さらに、オリオン座の北側にはやや黄色っぽく輝くぎょしゃ座の1等星カペラがあります。今度は、オリオン座の三ツ星を北西にのばしていきましょう。オレンジ色に輝く星はおうし座の1等星アルデバランです。ぎょしゃ座のカペラを頂点にして、アルデバラン、リゲル、シリウス、プロキオン、ポルクスの6つの星を結んでできる大きな六角形を『冬のダイヤモンド』と言います。

そして、東の空には春の星座が見え始めています。南東の空で「？」マークを裏返したような形をした星の並びを、“ししの大がま”といいます。ししの大がまの一番下にある星は1等星のレグルスです。ししの大がまはしし座の一部で、ししの頭から胸にあたります。ししの大がまから目線を東にうつすと2等星のデネボラがあり、このあたりがししの尻尾の部分にあたります。

夜空で輝く冬のダイヤモンドや見え始めた春の星座を巡りながら、季節の移り変わりを感じてみてはいかがでしょうか。

【見ごろの惑星】 (☆マークは、今月のおすすめです。)

- 水星(-0.7等前後): やぎ座→うお座付近 観察に適していない。
- ☆金星(-4.6等前後): いて座→やぎ座付近 日の出前、南東の低空でひととき明るく輝く。
- ☆火星(1.2等前後): いて座→やぎ座付近 日の出前、南東の低空で赤っぽく輝く。
- 木星(-2.0等前後): みずがめ座付近 観察に適していない。
- 土星(0.8等前後): やぎ座付近 日の出前、東南東の低空で輝く。(中旬～下旬)

	日の出	日の入
1日	6:47	18:14
15日	6:29	18:26
31日	6:08	18:37

(久留米市)

注目の天文現象(3月) ～霞がかった空で輝く月を楽しもう～

21日に春分を迎え、あたりはずいぶん春めいていきます。空を見上げると、春は白っぽく霞がかって見える日が増えてきます。これは、春は地面から上空に向かって発生した上昇気流によって砂やほこりが舞い上げられやすく、これらが太陽の光を散乱させてしまうからです。また、気温が上がると空気中に含むことのできる水蒸気量も多くなります。水蒸気を多く含んだ空気は上昇気流によって上空に運ばれます。上空に運ばれた水蒸気は冷えて水滴となり、この水滴もまた空を白っぽくする一因となります。さらに、春は黄砂や花粉の飛散量が多くなるのも空がかすむ要因の一つです。

空が霞がかった日は天体がぼんやりとして見えるので、天体観察にはあまり向いていません。しかし、霞がかってぼんやりとして見える月は「朧月(おぼろづき)」と言い、昔から俳句に詠まれたり、歌の歌詞に使われたりして親しまれてきました。朧月というと、満月を想像する方も多いと思いますが、月の形は関係がなく、半月でも三日月でも霞がかってぼんやりして見える月は全て朧月と言います。

ぜひ春には、菜の花畑や桜とともに、柔らかくかすんで見える朧月を楽しんでみてはいかがでしょうか。

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
3	木	● 新月 (02:35)	20	日	金星が西方最大離角 (18:25)
10	木	◐ 上弦 (19:45)	21	月	春分 (00:33) 久留米日出 06:21, 日入 18:30
18	金	○ 満月 (16:18)	25	金	◑ 下弦 (14:37)